



国際シンポジウムを開催

平成25年度CIATEコラボラドール・セミナー

「デカセギ現象の湧起から25年、
ブラジル日本間の移住のこれからの潮流」をテーマに



セミナー初日の開会式であいさつする当協会白川専務理事

ブラジル日本間の労働者の移転はなくなってしまうのか、それとも新たな流れを生む可能性を秘めたものであるのか分析が必要となっている。サンパウロの、国外就労者情報援護センター(CIATE=二宮正人理事長)は、去る9月28日、29日に、「デカセギ現象の湧起から25年、ブラジル日本間の移住のこれからの潮流」をテーマとするシンポジウム「地域コラボラドール公開研修セミナー」を開催した。

CIATEは、ブラジルにおいて日本での就労を希望する人たちに、一定の条件の下に求人情報を開示している他、就労情報や、日本の労働環境、労働法、日本での生活、子弟の教育等について、正しい知識を普及する活動を行っている唯一の機関である。

それら知識普及活動の一貫として、日系人の比較的多い地方に住む日本でのデカセギ経験者を、地域コラボラドール(協力者)に認定し、ボランティアによる協力活動を依頼している。

各地で出稼ぎ希望者の相談にのったり、CIATEの実施する行事の宣伝をしたり、CIATEで行っている講習会や相談を、地方に出向いて行う、「巡回CIATE」の会場確保や手配、参加者の動員等がその内容である。

これら、コラボラドール(コラボラドールの複数形)の数は、15地域17人に及び、年に数回は、サンパウロでCIATEとの情報交換を行っているほか、年に1度、日本から有識者、厚生労働省担当官を招き、最新情報と知識について学習する機会として実施しているのが「地域コラボラドール公開研修セミナー」である。同セミナーは、日本での就労経験者や、これから就労を希望する人など一般にも開放され、本年は、両日

合わせ、150名の参加者を集めた。

日本から、厚生労働省職業安定局有期・派遣労働対策部外国人雇用対策課堀井奈津子課長、有識者として関西学院大学経済学部井口泰教授等らが日本から参加し、CIATE業務の日本におけるパートナーである当協会からは、白川光徳専務理事が参加した。

セミナー前日の9月27日に、厚生労働省は2008年末から翌3月まで実施した「日系人帰国支援事業」による帰国者に対する日本への入国制限の解除を発表。セミナーのテーマである「ブラジル日本間の移住のこれからの潮流」にもう一つ可能性を提供することとなった。

セミナー2日目の29日はCIATE国際シンポジウムと銘打って有識者による講演が行われた。

外国人集住都市会議アドバイザーも務める関西学院大学井口教授は、「日伯経済関係の将来と日系ブラジル人の役割—世界経済危機の教訓と包括的な外国人政策の展望—」と題した講演で、「問題のリアリティーは地方にある」と述べ、職業訓練やハローワークと市町村の連携、情報へのアクセスが日本語標準となっている問題を指摘する一方、多文化共生政策から統合政策へ移行することの必要性について述べた。

厚労省堀井課長は、「一部に厳しさが見られるものの、ゆるやかに回復しつつある」と日本の雇用状況について述べたが、日系人については、日本語力、賃金、職種について雇用側とのミスマッチが起こっており、日本語の習得と求人との多い職種で専門的なスキルを高めることが新たな可能性を広げると述べた。

日本でのデカセギ経験者として、ブラジルで投資会社を興したロドリゴ・アキオ氏、日本でデカセギから日本人客も訪れるピザ・レストランの経営者になったロベルト辻氏が、それぞれ日本での体験談と、成功のための秘訣を語った。

CIATE二宮理事長は、「1900年代、日本人移民のバイオニア到着から70年代の日本企業の進出時代、そして80~90年代のデカセギと、日伯交流はそれぞれの時代があり、移民80周年の1988年、日系社会は、子弟が日本語を覚える機会について心配したが、それから25年間で、50~60万人が、日本を知って帰国した」とデカセギ25年の人の流れについてまとめた。

外日系団体の未来を担って

日本で非営利団体の運営学ぶ JICA日系研修員 パラグアイの吉田秋恵さん

当協会がJICAに提案し受け入れている日系研修個別「技術者」コースは、「研究者」コースと合わせ自然科学分野、社会科学分野、人材育成等、応募者の希望に応じて、幅広い分野で受け入れが可能であり、過去に日本での研修を希望する多くの有望な人材の来日・研修が実現した。

本年度「技術者」コースも、上半期来日の3名が、横浜国立大学大学院国際社会科学研究院で会計学を、筑波大学情報科学系でコンピュータ・クラスターを、東京農業大学地域環境科学部で造園学をそれぞれ研修中で、父母、あるいは祖父母の祖国日本で、まさに多彩な分野の研究・研鑽に励んでいる。

下半期も3カ月以下の研修期間の短期コース4名の受け入れが決定しておりそのうちの一人、パラグアイの吉田秋恵さん(24)が9月29日に来日し、当協会での研修を開始した。

吉田さんは、ラパス日本人会の職員で、同会が運営する診療所と薬局の会計事務を担当している。同会は、その他に、日本語学校の運営、青少年育成支援と文化活動支援、道路補修重機の賃貸事業、植林事業、治安協力や、パラグアイ行政機関との折衝までを行う、日系コミュニティの要となる機関である。



ラパス移住地の「デジタル移住資料館」を作成中の吉田さん(JICA横浜海外移住資料館で)

移住当初、それぞれの地域で日系団体が創設され、学校運営や婦人会活動、青年会活動、医療や福利厚生など、コミュニティに必要な事業を行う、会員間の相互扶助的な役割を果たしてきた。しかし、近年、日系団体の活動に参加する日系人が減少し、その運営管理体制



旧神戸移住センターである「海外移住と文化の交流センター」で

は脆弱化しており、一世から二世へ、三世から四世、五世へと世代が進むにつれ、日系社会やそれを取り巻く環境も変化し、そのあり方を見直す必要に迫られている。

吉田さんは、来日後の発表で、幼児の減少や、質の高い日本語教師の確保が困難であることなど、日本語学校運営に係る問題や、日本語のできない会員の増加、二、三世の若者が、負担金を払ってまで会の運営に参加しながらない、など、会の存在自体に関わる問題を指摘した。

当協会は、今後、海外の日系団体が新たな方向性を見出し、活動を活性化させることは、日系社会が属する地域社会

の発展にもつながるという観点から、日系団体職員に対して、日系団体が抱える課題・問題の解決方法や、公益的かつ持続可能な団体運営方法に関する知識や技術を身につけさせる研修の実施を提案し、公益法人として海外日系人に関わる事業を実施している当協会が、研修実施団体となって今回の研修が実現した。

吉田さんは、日本の非営利団体の活動や、コミュニティビジネス、さらに会議やミーティングにおけるファシリテーション手法を学ぶほか、地域に密着した活動を行う非営利団体の視察を通じて、団体運営の手法について学び、新規事業計画や団体活性化についての企画・立案までを目指す。

賛助会員のご案内

当協会では、当協会の事業目的および活動趣旨についてご賛同いただける賛助会員を募集いたしております。会費・特典等は下記をご参照下さい。

日本国内の賛助会員には、海外日系人大会初日に開催する、皇室をお招きしての歓迎交流会にもご参加いただけます。

この機会に、ぜひとも当協会賛助会員へのご加入をご検討下さいますようお願い申し上げます。

海外日系人協会賛助会員

◆年会費

・国内	企業団体	：1口以上 一口	30,000円/年
	公益団体	：1口以上 一口	10,000円/年
	個人	：1口以上 一口	10,000円/年
・海外	団体	：1口以上 一口	100ドル/年
	個人	：1口以上 一口	100ドル/年

◆特典

- ①海外日系人大会レセプションのご招待(国内)
- ②季刊「海外日系人」誌の送付
- ③「NIKKEI NETWORK/海外日系人協会だより」の送付(年4回)
- ④当協会企画の南米視察・訪問団等のご案内
- ⑤当協会が発行する刊行物の割引!

◆送金

- ・国内
- ①郵便振替 口座番号：0010-5-703428
加入者名：公益財団法人 海外日系人協会
- ②銀行振込 (銀行名) (支店名) (普通預金口座番号)
- | | | |
|-----------|------|---------|
| 三菱東京UFJ銀行 | 横浜 | 4472220 |
| 三井住友銀行 | 横浜中央 | 0110749 |
| みずほ銀行 | 横浜 | 2530298 |
- (口座名義) ザイカイガイニッケイジンキョウカイ
- ・海外 国際郵便為替 又は 銀行小切手
(宛先名) THE ASSOCIATION OF NIKKEI & JAPANESE ABROAD

8回福岡県人会世界大会が母県で開催

16カ国より600人が参加

福岡県出身の海外移住者とその子孫が母県に集う「第8回海外福岡県人会世界大会」が10月9日から12日まで、福岡市の西鉄グランドホテルで開催された。16カ国・26地域の県人会会員や県内関係者ら、約600人が参加した。世界大会は3年に1度各国持ち回りで開かれ、福岡県での開催は12年ぶりとなった。

9日夕刻に開催された記念式典で、小川洋福岡県知事は、「政治、経済、文化が急速にグローバル化する中、県と海外との橋渡し役として在外県人会はますます重要な存在となってきた」と述べ、大会が「青少年やビジネス分野でのネットワーク構築の機会となるよう願う」と挨拶した。

在外福岡県人を代表して、米・ロサンゼルス南加福岡県人会宗伸之会長は「共通の話題や悩みを話し、情報、アイデアを提案し合う実りある大会にしたい」と挨拶。続いて来賓としてアメリカで日系人初の州知事となったジョージ・アリヨシ元ハワイ州知事が挨拶し、連合国軍の一員として第二次大戦終戦後、日本に駐留した経験を述べ、「福岡県にルーツを持つ者として、この福岡世界大会に参加している皆さんと、先祖に対する誇りを共有することができる」と述べた。

10日に県人会代表者による代表者会議が行われ、11日はふるさと巡りコースとビジネスコースに分かれ、それぞれ福岡県内の観光地巡りと、TOTOやゼンリン等の企業視察を行った。

また10日夜には北米ビジネスセミナー、11日夜には南米・



記念式典での鏡開き。前列左から4人目がアリヨシ氏。右端は麻生渡前福岡県知事

ブラジルセミナーが行われた。12日は各国の料理店などが出店する県人会フェアが天神中央公園で行われ、市民と海外参加者との交流の場となった。

夕刻のさよならパーティーで、代表者会議や青少年セミナーでまとめられた、「福岡宣言」が、アメリカのシアトル・タコマ福岡県人会玉井純夫会長より、「今後、両国青少年育成のための相互交流を進め、福岡県と海外県人会の幅広い分野における交流を推進し、ネットワークの拡大・強化に努める」と読み上げられた。次回開催は2016年のメキシコとなる。

7

在日
ニッケイ人は
今...

遠くて近い国 パラグアイ・フェスティバル 開催

「まるといパラグアイ、遠くて近い国」パラグアイ・フェスティバル in Tokyoが10月13日(日)、在日パラグアイ人も多数参加し東京都練馬区の光が丘公園で開催された。

パラグアイの紹介展示ブースでは、日本人の移住と日系社会や、東日本大震災被災者への支援活動などパラグアイと日本との関係が紹介され、ステージではパラグアイのハーブ、アルパの演奏や、頭の上に酒瓶を縦に重ねて乗せる瓶ダンスなどの民族舞踊が披露された。またマテ茶など特産品の物販や緻密なレース編み



在日パラグアイ人、南米ファン等多くの人々が集った

のニャンドウティの製作体験も行われた。

炭火で肉を豪快に網焼きするアサードも実演販売され、参加者は舌鼓を打ち、パラグアイ文化を体感した。

岐阜県民ブラジル移民100年史が完成



NPO法人Mixed Roots×ユース×ネット★こんべいどう(渡辺マルセロ代表)が、製作していた「岐阜県民ブラジル移民100年誌」がついに完成し3月に発刊された。

従来の移住史と決定的に違うのは、県内に在住するブラジル人子弟に向けて作られている点である。マルセロさんは、日

本に住んでいるブラジル人の子どもが、ブラジル人としてのアイデンティティに自信がもてるようにと、同誌の製作を考えた。第一部は「かけはし」とし、県の移住史と県出身の移住と関わりのある偉人をとりあげた。第二部は「きずな」とし、県内とブラジルとの姉妹都市交流や、ブラジルで生きる岐阜県人の姿を紹介した。第三部は「みらい」とし、県内に住むブラジル人子弟が自身の夢を語る。

日本語とポルトガル語並記。問い合わせは同NPO法人へ。
Eメール: youth.conpeitou@gmail.com

再入国制限解除でも…

従来の「デカセギ」はもはや不可能

「コラボラドーレス会議2013」に思う

今回は、去る9月28日、29日に、サンパウロで行われました「コラボラドーレス会議2013」について、報告いたします。

「コラボラドーレス会議2013」は、CIATEの主催する、日本への就労について考える国際シンポジウムです。第1回は、2002年に、CIATE設立10周年記念行事の一つとして開催し、その後、毎年1回開催してきましたので、今回が12回目となります。

今回の「コラボラドーレス会議2013」のテーマは、「デカセギ現象の湧起から25年、ブラジル日本間の移住のこれからの潮流」としました。

ご承知のとおり、在日ブラジル人のほとんどは日系移民の子孫ですが、その数は2007年の31万7000人をピークとして、2008年のリーマンショックを境に2009年、2010年と急激に減少し、その後、東日本大震災による影響は見られず、勢いは鈍化したものの、減少傾向にあることは変わらず、2012年の法務省統計の速報値では、20万人を切るまでになっています。しかし、その一方で、今年に入ってから、日本国内の景気は好転の局面に入ったといわれており、サンパウロでも日本での就労に関する求人情報を耳にすることが増えてきました。

こうした現状を踏まえ、今後、ブラジルから日本への就労は、ここ数年の流れのまま減少をたどってなくなってしまうのか、それとも、現在が岐路となって新しい潮流が生まれ、再び増加に転じるのか、そうした点を議論すべく、このような今回のテーマを設定しました。

また、このシンポジウム開催と時を同じくして、厚生労働省より、懸案であった「帰国支援事業」による支援を受けて帰国した方の日本への再入国制限を解除する発表がありました。

今回のシンポジウムでは、日本からは、国際的な労働者の移転に関する問題の専門家である青森中央学院大尾崎正

利教授、関西学院大井口泰教授と、厚生労働省外国人雇用対策課堀井奈津子課長、またブラジルからは、経済評論家のパウロ横田氏、日本での就労経験者として、ロドリゴ・アキオ、ロベルト社の両氏などに講演をいただきました。

各講演に共通して指摘されたのは、「これまでのようなデカセギは、もはや不可能である。」という

点でした。すなわち、これまで、日本への就労といえば、25年ほど前から始まった、いわゆる「デカセギ」であり、これは、日本とブラジルの賃金の格差を利用して、職種はともあれ、日本で大きな収入を得て、帰国するというのを主たる目的とした就労形態でした。しかし、依然として日本のほうが名目的には賃金は高いものの、ブラジルの経済の安定と経済成長、それに対し、日本の長期不況とデフレ現象により、その格差は狭まってきました。特に、これは、従来ブラジル人の多くが日本で就労してきた、製造業現場での単純労働について顕著に表れています。日本国内では、労働者の給与水準を下げるのみならず、国際競争力を維持するため、生産拠点の海外移転が進み、そもそも雇用先が少なくなっていることが大きく影響しています。

では、もう日本での就労の可能性はなくなったのでしょうか。

確かに、従来日系人やその家族の多くが就労していたような自動車や精密機械の組み立てラインのような製造業の仕事は少なくなっているでしょう。しかし、日本国内の有効求人倍率(数値として有効な求人数と求職者数の割合)は、2009年8月に0.42倍で底を打った後は、今年7月現在で0.94倍にまで上昇しています。これは、現在はほぼ求人数と求職者数が同じになっていることを示しています。



日本でのデカセギ体験を語るロドリゴ・アキオ氏

では、なぜ組み立てラインのような製造業の仕事が減っているのに、有効求人倍率が上昇したかということ、それは、その他の分野で求人数が増えているからです。たとえば、輸送、販売、サービス、介護、建設、保安といった分野の仕事では、求人数が増加しています。これらの分野の共通点は、相対的に機械化をすることが難しく、あくまで「人手」が必要であるという点です。そして、これらの分野で就労するには、一般に、一定のスキルが必要とされます。さらに、販売、サービス、介護といった分野では、一般の顧客を相手として働きますから、なにより日本語の能力が重要になってきます。

したがって、日本での就労できるかどうかという点で言えば、従来の「デカセギ」のような製造業等での単純労働で高い賃金を得るといったのは、もはやほぼ不可能といってよく、それに対して、今後については、日本語を含めた一定のスキルを持つ、または日本でそれを獲得することを目指すのであれば、まだまだ可能であると言って良いでしょう。

さて、帰国支援事業による再入国制限が解除されました。この稿で述べた日本の現状を合わせて考えたとき、日本ブラジル間の労働者の流れが今後どのようなものになっていくか、これまで以上に注視していきたいと考えています。

※「日本に滞在するには(後編)」は次号に掲載します。

相談増える家族問題

相談センター 山形エレナ

(公財)海外日系人協会 日系人相談センター

■相談受付 月曜日～金曜日(土・日曜、祝祭日を除く)
14:00～17:30

■対応言語 ポルトガル語、スペイン語、日本語

■電話番号 045-211-1788

2008年秋のリーマンショックに端を発する、日系人の大量失業者救済のため厚労省が行った「日系人帰国支援事業」の適用を受けて母国に帰国した人たちの日本再入国制限が10月15日に解除されました。日本で1年以上の雇用期間がある雇用契約書の写しの提出が条件ですが、現在も日系人の就職状況は厳しく、来日就労を決断するには十分な情報収集と計画を持つことが必要です。

今後、再来日に関わる相談が増えることが予想されますが、最初の相談者のような人もいることでしょう。

(相談事例)

日本に戻りたい。

相談 1993年に日本に出稼ぎに行きました。職場で出会った女性と結婚して、二人の子供を授かりました。子どもたちに日本の教育を受けさせ、将来は大学まで行かせるため家族で永住権を取得しました。仕事も安定していたことで20年のローンを組んで夢のマイホームも購入しました。2008年の危機も乗り越えて、安心して暮らしていたところ、突然2011年の東日本大震災と原発事故が起きました。怖くなり、公共の手続き、銀行のローンの返済も何もせず帰国しました。簡単に言えばすべて放置して逃げました。その当時、家族の安全を第一に考えて取った行動です、いまとなって後悔しています。子供たちは日本の学校に通っていて、友達がたくさんいました。子どもたちはブラジルでの新しい生活になじめず、ポルトガル語が上手く話せないため苦労をしています。

再入国手続きをして帰りましたが、来年で期限切れとなるので、その前に日本に戻りたいです。家のローンや税金などについて調べたいのですが、どのようにしたら良いのでしょうか。日本に戻ったら逮捕される可能性があるでしょうか。また専門家を紹介していただけるでしょうか。

対応 2年近く家やローンを放置していたため、銀行に差し押さえているものと考えられます。そうすると競売にかけられている可能性が高いです。家の名義が誰になっているかは、管轄の法務局に行って、登記事項証明書を取って確認することができます。

税金等に関しては逮捕されることはありませんが、未納金が消えることはありません。日本に戻り次第、市から2年近くの滞納分+延滞税(年利14~15%ぐらい)を請求されます。(ポルトガル語が出来る行政書士を紹介した)

知らない間に離婚されていた

相談 24年前にペルーで知り合った日本人男性と結婚して来日しました。子供が二人でき、長女は22才、次女が中学生になります。

6年前に、夫は転勤となり、子供たちは転校したくなかったため、単身赴任しました。休みも家にほとんど帰らず心配しま

したが、忙しいから帰れないと言われました。自分も仕事があり中々休みが取れず行くこともできませんでした。

病院へ行き、会計窓口で健康保険証が使えないと言われました。夫と連絡が取れなかったので、市役所へ行きました。事情を説明したところ、初めて離婚されていることが分かり、しかも夫はコロンビア人女性と結婚していて、彼女の20才と18才の子供を養子にしていました。気が動転して何をしたらいいのかわかりません。弁護士を雇う余裕がないので心配です。

対応 ご主人は無断で離婚届を提出したことで、罪に問われる偽造離婚と、法律で禁じられている重婚をしました。離婚の無効を求めるにしろ相手に償いを求めるにしろ、中学生の子供もいますので養育費を考えなければなりません。家庭裁判所で相談及び手続きを行ってください。家庭裁判所の手続きには大きな費用は掛かりません。訴訟を起こす場合には弁護士を立てることになりますが、条件がそろえば、法律扶助協会から弁護士料を立て替えてもらって、後から毎月分割で返済をする「法律扶助制度」を利用できます。

妻が薬物依存?

相談 ある女性と20年近く同棲していました。事情があって正式に結婚をしていますが二人の間に4人子供がいます(長男高1、長女中2、次女小3、次男4才)

下の子が2才の時、彼女と別れ今は別々に住んでいます。子供たちの生活費などは私が全部出しています。彼女はレストランの厨房でアルバイトをしていて、基本は午前中だけです。夜も2、3回出勤します。その時は私が子供たちの食事からお風呂まで面倒を見、私が夜勤で出来ない場合には長男がやってくれていました。

最近、彼女の様子が尋常ではないと感じています。毎晩のようにカラオケや飲酒に出かけ帰りはいつも午前様なのですが、どうも薬物を使用しているようなのです。そうであれば警察に通報するつもりですが、もし、彼女が、薬物使用で逮捕された場合には子供たちはどうなりますか。正式に結婚をしていなくても、私が子供の親権をとれるでしょうか。

対応 大変な問題ですね。日本は禁止薬物の不正使用にはとても厳しいです。薬物依存が疑わしければ、精神科の病院、健康福祉センターに相談することもできますが、使用しているのが事実であれば、警察に相談するのが一番正しい選択だと思います。使用している人たちは自分がどんなに危険に晒されているかわからないので、外部からの助けが重要です。

貴方が心配している子供たちのことですが、正式に結婚をしていなくても、実の子供であるのは事実なので母親がいなければ父親が親権を持つことになります。もし、彼女が薬物使用で逮捕された場合、釈放されてもビザの更新はかなり難しくなります。永住権を取り消される可能性があります。

特別展示「日系人と混血ーハッパとメスチソンー」展開催
JICA横浜 海外移住資料館



JICA横浜海外移住資料館は、11月15日(金)～12月28日(土)特別展示「日系人と混血ーハッパとメスチソンー」展を開催する。

世代の進むアメリカ、ブラジルでは、日系人のおよそ半数が混血だと推定される。日系人という意識やアイデンティティを強く持ち続ける人がいる一方で、混血としての意識やアイデンティティを見いだす人たちもいる。

「ハッパ」や「メスチソン」と呼ばれる「混血」の人たちのポートレートや証言映像で、その実態に迫る。

ブラジル映画祭開催

10月12日(土)から11月23日(土)まで、「ブラジル映画祭2013」が開催中。

「一人でも多くの人にブラジルの魅力、ブラジル映画の魅力を知ってほしい」と2005年から毎年秋に開催され、今年で9回目。ドラマ、音楽、ドキュメンタリー等様々なジャンルの日本未公開作品8本を上映している。

東京は、10/12(土)～18(金)、福岡は、10/12(土)～14(月・祝)と19(土)、

日系社会
Topics

20(日)、25(金)、金沢が10/19(土)～25(金)、大阪が10/26日(土)～11/1(金)、浜松は11/2(土)～10(金)まで。

ミナス州郊外の広大な農業地帯に、ひっそりと存在する小集落グラミーニャに根を張った日系移民家族の軌跡を美しい映像で辿る。「記憶」をテーマにしたドキュメンタリー「時折～グラミーニャの日系家族～」も上映される。

<http://www.cinemabrasil.info/>



映画「時折～グラミーニャの日系家族～」より

元ブラジル日本語センター理事長
谷広海さんが死去



第47回日系人大会に参加した在りし日の谷さん(2006年)

元ブラジル日本語センター理事長で、在伯宮崎県人会会長の谷広海さんが、現地時間の10月2日に亡くなった。73歳だった。谷さんは9月

28日、サンパウロ市内で交通事故に遭い、危篤状態が続いていた。2001年から12年までブラジル日本語センター理事長を務めたほか、宮崎県人会会長、ブラジル龍馬会会長などを歴任。ブラジル日本文化協会(現ブラジル日本文化福祉協会)の会長に立候補したこともある。

早稲田大学を卒業後移住。ブラジルの大学でも学び、弁護士資格も取得していた。

今年8月に来日し、来年開催される宮崎県人会創立65周年記念式典に宮崎県知事の出席を要請。9月12日に帰伯し、28日午前に行われた宮崎県人会の役員会に、その報告のため出席する予定であったという。

葬儀は3日に行われ、200人を超える人々に見送られた。

東京都家族会佐藤会長が死去

当協会監事
で、東京都海外移住家族会の佐藤影純会長が、がんのため7月29日に亡くなった。享年76歳。



佐藤会長は、アマゾン移住の先駆者となった「高拓生」第2回生の本間武四郎を叔父に持ち、現地の親戚や、生存していた高拓生やその縁者とも交流し親交を深めていた。

31日行われた葬儀には、武四郎長男で従兄弟に当たる農学博士アルフレッド・オヤマ・ホンマからも、その死を惜しむメッセージが寄せられた。

NIKKEI NO.18
Network
2013 OCT.

発行/(公財)海外日系人協会 〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1赤レンガ国際館2F
TEL:045-211-1780 FAX:045-211-1781
E-mail:info@jadesas.or.jp URL:www.jadesas.or.jp 編集発行人/白川 光徳

Health and Life Insurance for foreigners in Japan

短期滞在・日本在住の外国人向け医療・生命保険

VIVA MED-S (Life and Health coverage)
医療保険(100%保障)+生命保険

VIVA MED-30
医療保険(30%保障)+生命保険

3ヶ月以内の短期滞在者向けの保険



少額短期保険会社
(株)ビバビダゲメディカルライフ
VIVAVIDA MEDICAL LIFE CO., LTD
関東財務局長(少額短期保険)第51号

外国人留学生向け保険

外国人技能実習生向け保険

For more information, call:

TOLL FREE: 0120-656-684

TEL: 046-265-6685

Visit www.vivavida.net

